

# 補足説明資料

2022年3月31日

必要なヒトに、必要なコトを。

**INCLUSIVE**

# 株式会社オレンジの株式取得について

## 案件の概要

- 株式会社オレンジ株式の58.9%を取得し、連結子会社化
  - 小山薫堂氏、軽部政治氏が共同代表を務める
  - 主力事業は企画、デザインコンサル、飲食事業

## シナジー

- 社会ゴト化できる企画の力と、メディアの特性を掛け合わせた展開
  - オレンジが強みを持つ食領域をはじめとしたメディア展開
  - 地域創生・活性化につながる企画の展開
  - 下鴨茶寮のデジタル展開強化 等

## 業績に対する影響

- オレンジグループの直近期業績は売上3,110百万円、営業利益131百万円、経常利益174百万円
- 2023年3月期に連結子会社化。通期業績に与える影響は精査中

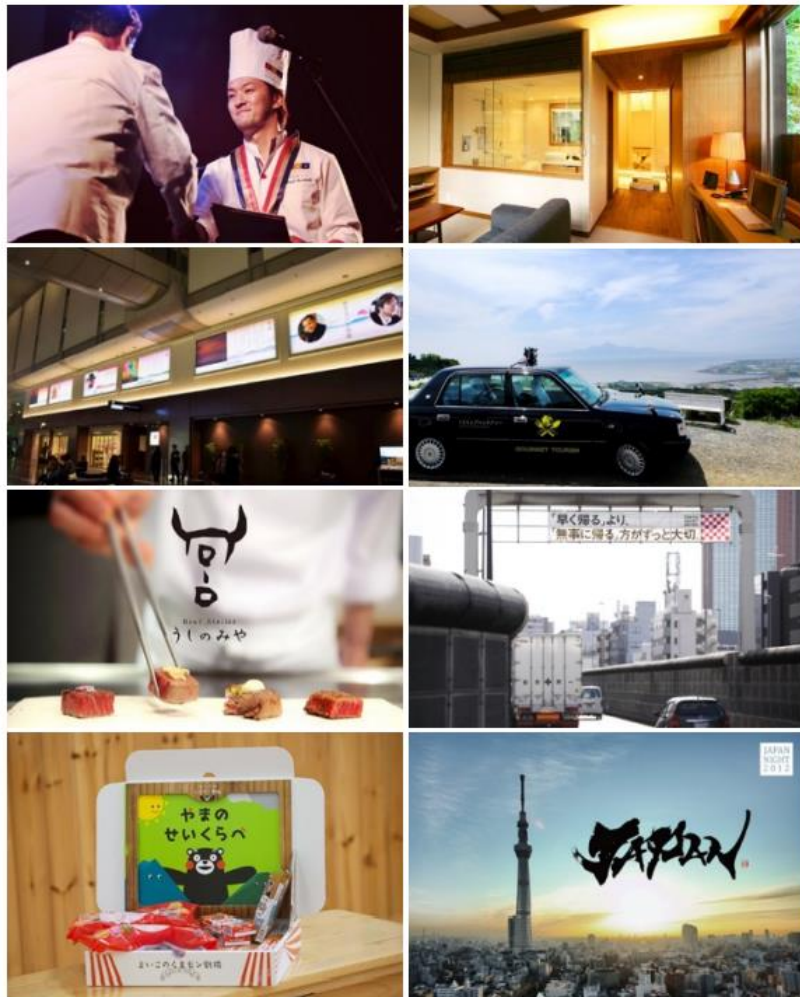
## 資金調達について

- 社債／新株予約権、第三者割当により本件実施の為の資金調達
  - 現経営陣だけでなく、オレンジの既存株主ならびにINCLUSIVE代表取締役による第三者割当増資の引受
  - 今後のグループ成長に対して両経営陣がコミット

# オレンジについて

# 株式会社オレンジの概要

株式会社オレンジは、クリエイター小山薫堂氏と軽部政治が共同代表を務めるホールディング会社。主な事業として企画事業（オレンジ・アンド・パートナーズ）、デザインコンサルティング事業（ジョージクリエイティブカンパニー）、飲食事業（下鴨茶寮）等を傘下に持つ



オレンジは、いつも「それぞれにとっての幸福」を考え、創りつけています。

生活者が、企業が、世の中が、皆がハッピーになる「企画」とは？

それを創り出す事が出来たとき、そこにはさまざまな人が集まります。

人が集まると、そこにまた、さらなる人々が集まります。

すると、それは「ブランド」となり、集まった人々を媒介に

「メディア」としての機能が働くこととなります。

オレンジは、あらゆるモノや場所を「ブランド化」「メディア化」することで

そこに芽生えたハッピーを社会へと発信していきます。

# 株式会社オレンジ共同代表プロフィール



## 小山薫堂 代表取締役社長

オレンジ・アンド・パートナーズ代表取締役社長。N35 Inc. 代表。放送作家。脚本家。1964年6月23日、熊本県天草市生まれ。日大芸術学部放送学科在籍中に放送作家を開始。以降、「料理の鉄人」「カッパの屈辱」「東京ワンダーホテル」「ニューデザインパラダイス」等斬新なテレビ番組を数多く企画。2003年「トリセツ」が国際エミー賞に入賞した。2008年公開された「おくりびと」が初めての映画脚本となるが、この作品で第60回読売文学賞戯曲・シナリオ部門賞、第32回日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第81回米アカデミー賞外国語部門賞獲得をはじめ、国内外で高い評価を受けた。テレビや映画以外でも、ライフスタイル誌のエッセイ連載、小説、絵本翻訳など、幅広い執筆活動を展開。ラジオではパーソナリティーとして出演中。平成29年4月より京都芸術大学 副学長に就任。

## 軽部政治 代表取締役副社長

1969年 9月19日、東京都生まれ。イベント、貿易、IT業界などの企業への経営 参画を経て、平成16年10月にマーケティング 専門会社の代表取締役社長に就任。主にブランドエンタテインメントやバイラルマーケティングなどの新しい広告手法を主業務としてマーケティングやマネジメントに従事。

平成18年9月これまでの経験を活かし、脚本家小山薫堂と共に株式会社オレンジ・アンド・パートナーズを設立。同社 代表取締役副社長に就任。平成21年4月より9年間 東北芸術工科大学デザイン工学部 企画構想学科 教授を務め、平成30年4月より京都芸術大学情報デザイン学科 クロステックデザインコース 教授に就任。

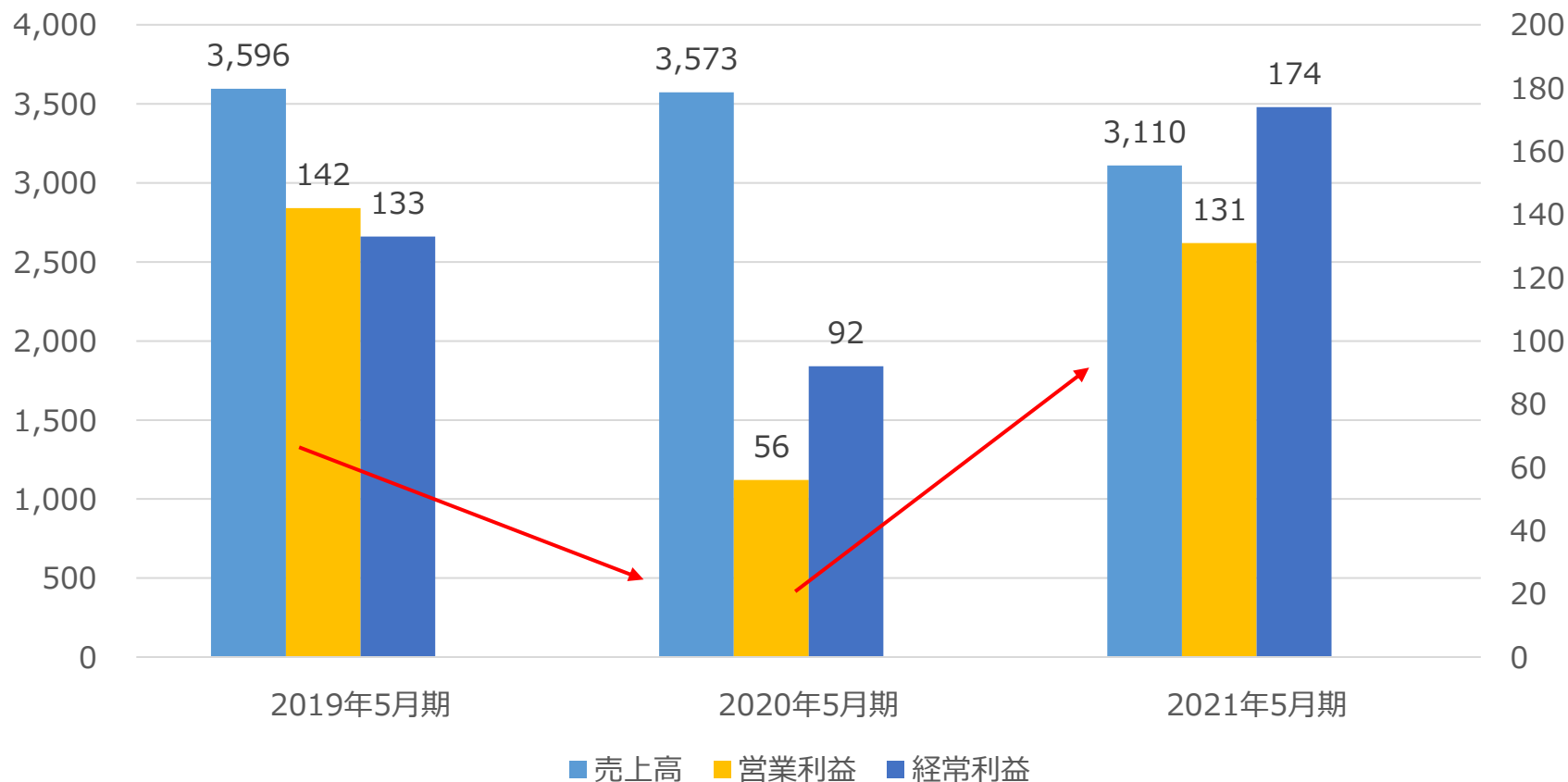


# 株式会社オレンジの業績推移（連結）

コロナの影響を受け直近二期で売上は減少したものの、収益性を重視した事業展開の結果、足元の事業構造は強化されている状況

(百万円：売上)

(百万円：利益)



# 株式会社オレンジの活動事例：Space (空間企画)

## THE LIVING GARDEN (フェニックス・シーガイア・リゾート)



### リゾート施設内に多様な居場所をつくる。

もともとあった中庭をフルリノベーションして、宿泊者向けの専用プールとBARを設置。朝昼晩、お部屋以外の居場所を提供することでリゾートの過ごし方を多様な形で提供しています。

Planning & Produce: ORANGE AND PARTNERS  
Design: Waso design



# 株式会社オレンジの活動事例：Space（空間企画）

## まってるラウンジ（桜十字病院）



### 「ポストのあるラウンジ」で病院をコミュニケーションが生まれる空間へ。

待合ラウンジにカフェ、ライブラリー、書斎などを有機的に配置することで、入院患者様とお見舞いに訪れるご家族、病院スタッフとのコミュニケーション拠点として生まれ変わらせました。

Planning & Produce: ORANGE AND PARTNERS  
Design: GEORGE CREATIVE COMPANY



# 株式会社オレンジの活動事例：Culture（文化醸成）

## &POST PROJECT



### 移動型郵便局「ポストカー」が全国を走り ラジオと連動して手紙によるコミュニケーションを 連鎖させていくプロジェクト

どんなに世の中が便利になっても、そのアナログな方法でしか伝えられないことがある。嬉しい時、泣きたい時、ありがとうを伝えたい時、その瞬間の気持ちをポスト（投函）する。赤いポストはそんなたくさんの人の思いを集めて熟成する場所。世界中の心と心をつなぐ、一番身近な目印。「&Post」は、街中にあるポストの価値を見つめ直すことで手紙の新しい可能性を探っていくプロジェクトです。

Planning & Produce: ORANGE AND PARTNERS  
Design: GEORGE CREATIVE COMPANY  
Client: 日本郵便



# 株式会社オレンジの活動事例：Local（地域創生）

## くまモン



## 誰しにも愛される熊本の象徴に

2011年の九州新幹線開通を期に始まったキャンペーン「くまもとサプライズ」。その企画のおまけとして生まれたのが熊本県のPRマスコットキャラクター「くまモン」です。くまモンのマークを誰でも自由に、無料で使えるようにしたこと、生活動線の中で県民の目に触れるように出没させたことから熊本県民の共感呼び、県内にとどまらない、全国的なくまモンブームが生まれました。



# 株式会社オレンジの活動事例：Local（地域創生）

## スモトのおべんと



### 五感で体感する“泣ける”アンテナショップ

淡路島の中央に位置する兵庫県洲本市のアンテナショッププロデュースに際し豊富な食の魅力を活かすため、従来型のアンテナショップではなく、「泣けるお弁当屋」をコンセプトに洲本市の食材を活かした究極のお弁当を販売する店舗に。洲本市の海と山の幸を商品と店舗演出で楽しめるほか、BEAMS JAPANによるポップアップショップでは隠れた名産品を紹介。五感で楽しめる場を目指した。



# グループにとっての意義

# 株式会社オレンジ グループ化の意義： 中期経営計画の観点から

## 事業規模・収益性

売上高： **150億円**  
営業利益： **20億円**

## 財務健全性

自己資本比率： **30%以上**  
(のれん控除後)

情報流通のDX化を推進する  
リーディングプレイヤーへ

### 成長戦略として

- 企画、デザインコンサル、飲食などの事業領域の事業ポートフォリオへの組み込み
- 既存事業領域に加え、漫画等新たなグループ事業ドメインへのシナジーも創出することで、計画実現に向けた展開を加速化

### 財務面での検討事項

- 財務健全性の指標として、のれん控除後の自己資本比率を継続的にモニタリング
- 本件実施後、のれん控除後自己資本比率、ならびに手元資金水準が低下する事が想定され、それらに対応する為の資金調達を同時に実施

# 株式会社オレンジ グループ化の意義： 事業戦略推進の観点から

インターネット上に場を作っていく「メディア」運営のノウハウに、「企画」が持つトレンドを創出していく力を掛け合わせ、グループ事業の両輪としてシナジーを最大化

新たなトレンドを作る「企画」の力



持続的に場を成長させていく「メディア」の力

INCLUSIVE

企画 × メディア

- オレンジが得意とする食領域や漫画を手始めに、企画力から生み出させるコンテンツ・コンテキストをメディア化

地域創生・活性化

- INCLUSIVEクライアント（地域メディア社）に対する企画・デザイン関連ソリューションのクロス提案

デジタル化推進

- 下鴨茶寮のオンラインコマース強化。インターネット広告の、オレンジクライアントに対するクロス提案

# 具体的な連携領域 (例)



食関連メディアの  
共同展開

No.9

漫画の原作制作・  
事業立ち上げ



下鴨茶寮のEC強化



地域特産品・ふるさと  
納税開発



地域創生・  
プロデューサー育成

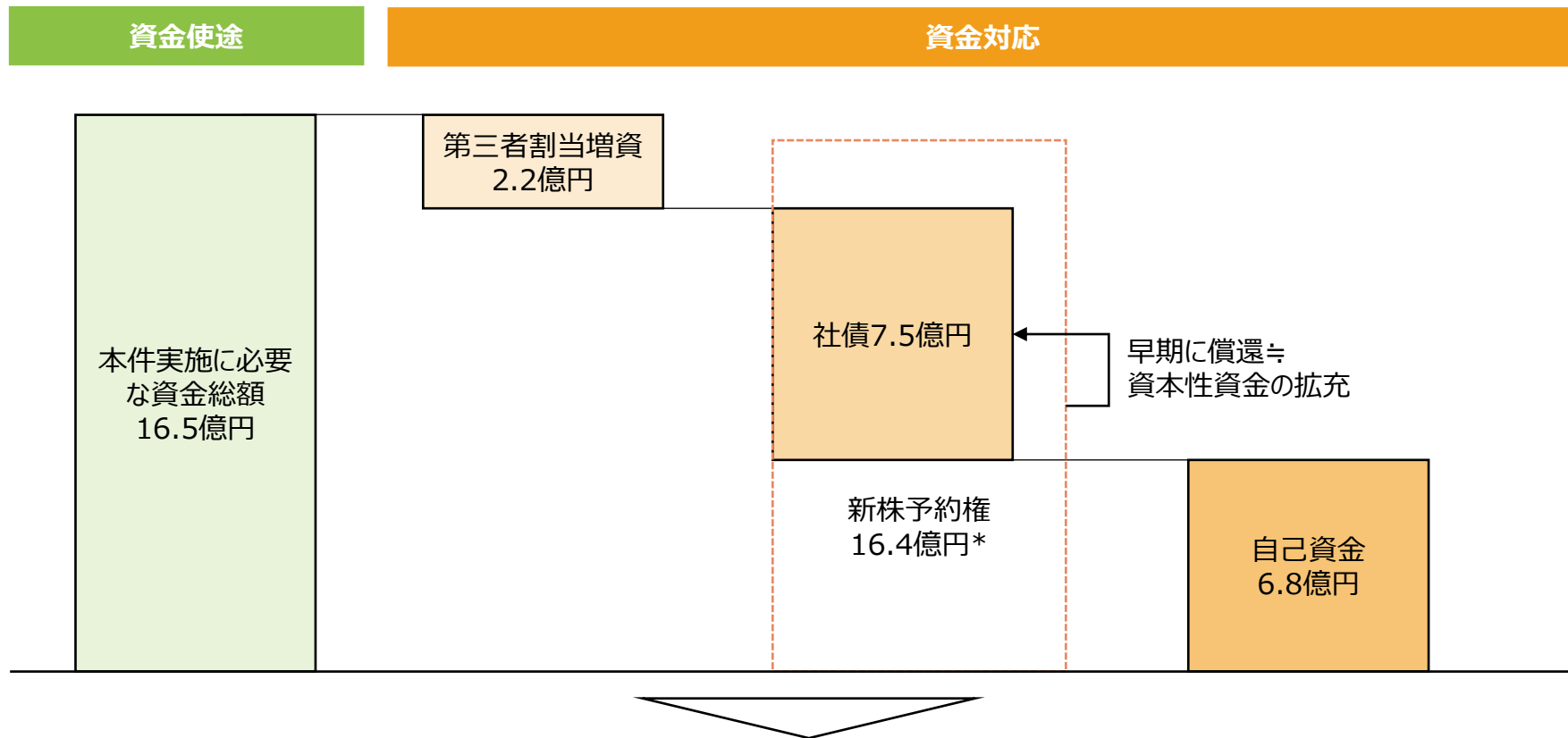


創業160年の歴史を持つ  
京都の老舗料亭

創業安政三年（1856年）、歴史と情緒溢れる京都・下鴨の地に160年以上掲げられた京料理の老舗、世界遺産として広く知られる下鴨神社のすぐそばに位置しております。美しい庭園と京都ならではの空間、伝統的でありながらも、革新的なお料理の数々、日本の歴代書相や各国外交官などのVIPも訪れる日本国内でも由緒正しき日本料亭です。

下鴨茶寮成功体験の  
横展開・ファン化

# 資金調達について



- 本件実施に必要な約16.5億円を、経営陣・株主に対する第三者割当増資、マッコーリーに対する社債／新株予約権の発行、自己資金により充当
  - 社債は新株予約権の行使により、早期に償還
  - 過度の希薄化を避けるため、既発の第9回・10回新株予約権を消却

\* 差引手取概算額

\*\* 資金調達の詳細については、同日開示の適時開示資料・有価証券届出書をご確認ください

必要なヒトに、必要なコトを。



# INCLUSIVE・オレンジ経営陣によるコミットメント

- ・ オレンジ経営陣、オレンジ株主ならびにINCLUSIVE代表取締役が第三者割当を引受
  - ・ オレンジ子会社化後のグループ成長に、両経営陣がコミットする姿勢を明確化

(両社経営メンバーによる第三者割当引受)

- ・ 藤田誠                    INCLUSIVE株式会社                    代表取締役社長
  - ・ 小山薫堂                株式会社オレンジ                    代表取締役社長
  - ・ 軽部政治                株式会社オレンジ                    代表取締役副社長
  - ・ 萩尾友樹                株式会社オレンジ                    取締役
  - ・ 内田真哉                株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ    執行役員
  - ・ その他、株式会社オレンジの既存株主の一部が引受
- 
- ・ あわせて、オレンジの主要役職員に対してストック・オプションを付与することで、今後のグループ事業成長に対するインセンティブを強化
  - ・ オレンジの子会社化は2022年4月21日を予定しており、来期業績に与える影響については今後業績予想開示の中で示していく予定

# Disclaimer

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社の過去数値または将来予測に関する記述によって表示又は示唆される将来の業績は、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要因により、実際の業績は記述によって表示又は示唆されるものから大きく乖離する可能性があります。当社は、当社グループの財務上の予想値の達成可能性について明示的にも黙示的にも何ら保証するものではありません。
- 開示規則により求められる場合を除き、今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。本資料に含まれる市場情報等は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

必要なヒトに、必要なコトを。

**INCLUSIVE**